

2017-B		I 5B			
拠出金・基金 の名称		国連国際防災戦略事務局拠出金			
種 別		☐ イヤマークのみ ☒ 一部イヤマーク			
【拠出先の国際機関名】国連国際防災戦略事務局					
【所管官庁担当局課・室名】外務省国際協力局地球規模課題総括課					
【当該任意拠出金の目的・用途等】 UNISDRは、途上国が自らの力で防災を進められるよう、各国に対し、国内の防災取組を調査し定期的にUNISDRに報告する制度を構築している。UNISDRは、各国からの報告をとりまとめ、防災取組の地域的・国際的な進捗状況を分析し世界防災白書として発表するとともに、今後必要な取組について提言している。また、防災ウェブを運営し、災害・防災データ等を公表している。さらには「世界津波の日」などの普及啓発活動に取り組んでいる。我が国の拠出金はこうしたUNISDRの活動に使用される。					
【最近3年間の我が国支払額及びODA率】					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成29年度	476,158	4,329		1ドル=110円	100
平成28年度	251,655	2,097		1ドル=120円	100
平成27年度	134,655	1,224		1ドル=110円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 UNISDRは2000年に設立されて以降、持続可能な開発に不可欠な要素としての防災の重要性を高め、自然災害による被害・損失の減少、災害リスクの軽減を目指し、災害に強い国やコミュニティの構築に貢献している。人道分野および開発分野に防災の観点を取り入れるための総合的な取組を推進し、また、そのための触媒的役割を果たしている。災害後の緊急対応のみでなく事前の予防・災害リスクの軽減に重点を置き、国際防災協力の枠組構築、調整のための触媒的役割を果たすと共に、各国の防災政策実施を支援し、パートナー機関と共に防災に関する国際的な指針の実施推進を行う等の成果を上げている。具体的には、2015年3月に仙台において開催された第3回国連防災世界会議では、「兵庫行動枠組2005-2015」実施による10年間の成果を踏まえ、後継枠組である「仙台防災枠組2015-2030」が採択され、各国による実施が要請されるとともに、防災分野での国際協力をさらに推進する上での取組の中心となっており、UNISDRはそのモニタリングを行う機関となっている。また、2015年12月に国連総会で全会一致で11月5日を「世界津波の日」とする議決が採択されて以降は、「世界津波の日」の普及啓発を進める機関として、日本政府やUNISDR議連等と連携し、世界各国でイベントを実施している。 引き続き、途上国の防災努力及び国際社会の防災協力を推進するためにも、UNISDRを支援する意義は非常に大きい。					
【備考】					